

5節スラブの配筋

(c)土間スラブ及びブラケットの配筋要領

(注)1.土間スラブにおいて□部分は梁の打増とみなし、打増補強筋を3.3により配筋する。

図5.10 置きスラブ及びブラケットの配筋要領

(d)段差のあるスラブの補強

(注)1. t2の厚さは200又はt1のいずれか大きい値とする。  
2. (イ)配筋は壁配筋表による(縦、横共)。(ロ)は壁配筋より1サイズ太い鉄筋とする。  
3. (ハ)配筋はスラブと同径・同間隔(縦、横共)とし(ニ)はスラブ筋と同径かつD13以上とする。

図5.11 段差のあるスラブの補強

(e)スラブピットの配筋要領

(注)1.基礎スラブピット配筋(イ)は接続する基礎スラブと同径同間隔とする。

図5.12 スラブピットの配筋要領

5.4床スラブ増打ち嵩あげコンクリート配筋

6節階段の配筋

6.1片持スラブ形階段(KA型)

(注)1.階段主筋は、壁の中心線を超えてから下向きに定着する。  
2.段形筋のスラブへの定着の長さは、150mmとする。  
3.片持ちスラブ形階段で壁厚が250未満の場合は、壁配筋表にかかわらず\*印筋(縦筋)は、断面表に示す縦筋以上かつD13@200以上の配筋とする。  
※ L2hを確保できない場合は(要)0.4(d)(3)によることができる。

図6.1 片持スラブ形階段配筋の定着

6.2一方向スラブ形階段(KB型)

(注)※ L2hを確保できない場合は(要)0.4(d)(3)によることができる。

図6.2 一方向スラブ形階段配筋

7節梁貫通孔その他の配筋

7.1梁貫通孔

(a)梁貫通孔は、次による。

(1)梁貫通孔補強筋の名称等は、図7.1による。

(2)孔の径及び間隔は、以下による。孔が円形でない場合はこれの外接円とする。

1.貫通孔径φは、  
(RCの場合)大梁φ≦D/5 小梁φ≦D/4  
(SRCの場合)φ≦D/3 かつ 鉄骨せいHs/2  
とし、設計図に示されない箇所については監督職員の指示に従う。

2.貫通孔の中心間隔は、  
(RCの場合)4×(隣接する貫通孔径の平均) かつ 500以上  
(SRCの場合)3×(隣接する貫通孔径の平均) かつ 500以上を原則とする。

(3)孔の上下方向の位置の限度は、  
(RCの場合)Ho≧250  
(SRCの場合)Ho≧250 かつ H1, H2≧100を満たすこと。  
(4)孔の中心位置の限度は、柱及び直交する梁(小梁)の面から、原則として1.2D(Dは梁せい)以上離す。

(5)縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。(@100)

(6)補強筋は主筋の内側とする。やむを得ない場合は、監督職員の承諾を受けて外側とすることができる。また、鉄筋の定着長さは、図7.3による。

(7)孔の径が100mm以下のものは、補強を省略することができる。

図7.1 梁貫通孔補強筋の名称等

図7.2 孔の上下方向の位置の限度

図7.3 補強筋の定着長さ

(b)梁貫通孔の補強形式は表7.1による。

(1)表7.1の標準補強は前記7.1(a)の条件のもとで算定したものであり、現場施工に当ってはシャースパン比ℓ/2dを考慮し、終局耐力計算書を作成のうえ監督職員の承諾を得ること。

(2)あばら筋がD16以上の時は、縦補強筋をあばら筋と同径とする。

(3)防火区画に位置する貫通スリーブは鋼管(STK400)とする。

(4)RC用スリーブは硬質塩ビ管とする。

(5)上記の他、貫通孔の水処理は設備工事施工管理要領による。

(6)基礎採用の欄にない貫通孔径の補強筋は大梁用と同じとする。

(7)土に接する梁の貫通孔スリーブはステンレス製(つば付)とする。

(8)縦補強筋の一巻とは、梁断面表に示すあばら筋形状を一巻とみなす。

(9)既製の補強筋を用いる場合には、監督職員の承諾を得ること。ただし、孔径が200mmを超える場合は上縦筋および、下縦筋を省略しないこと。

(10)鉄骨片持ち梁(CSG符号)およびSRC梁の貫通孔補強は、下記による。

図7.4 梁貫通孔の補強

(注)1.補強プレートは母材と同厚以上、同材質とする。  
2.補強プレートの形状を変更する場合は、監督職員の承諾を得ること。

表7.1 梁貫通孔の補強

貫通孔径(呼び径)D(mm)	タイプ1			SRC(STK400)貫通スリーブ(mm)	備考
	縦補強筋	横補強筋	斜め補強筋		
100φ以下	—	—	—		
125φ	1巻-D13	各2-D13	各2-D13		
150φ	2巻-D13	各2-D13	各2-D16	165.2φx5.0	
175φ	2巻-D13	各2-D13	各2-D16	190.7φx5.3	
200φ	2巻-D13	各2-D16	各2-D19	216.3φx5.8	
250φ	2巻-D13	各2-D16	各2-D19	267.4φx6.6	
300φ	2巻-D13	各2-D16	各2-D25	318.5φx7.9	
350φ	2巻-D13	各2-D16	各2-D25	355.6φx7.9	
100φ以下	—	—	—		
125φ	1巻-D13	各2-D13	各2-D13		
150φ	2巻-D13	各2-D13	各2-D13		
175φ	2巻-D13	各2-D13	各2-D13	190.7φx5.3	
200φ	2巻-D13	各2-D16	各2-D16	216.3φx5.8	
250φ	2巻-D13	各2-D16	各2-D19	267.4φx6.6	
300φ	2巻-D13	各2-D16	各2-D22	318.5φx7.9	
350φ	2巻-D13	各2-D16	各2-D22	355.6φx7.9	
600φ	2巻-D16	各2-D29	各2-D29		人通孔

↓★性能評価OFFレイヤ有

表7.2 設備貫通個数表(電気及び空調衛生用貫通孔)

	円形(φ)			矩形(m以下)		
梁貫通孔	梁構造					
	基礎梁					
	RC梁					
	SRC梁					
	S梁					
壁貫通孔	壁厚					
床スラブ貫通孔	スラブ厚					

(注)1.設計図図示(ピット平面図、鉄骨梁伏図、軸組図等)以外に上表の数量を見込むこと。上表には建築用開口及び基礎梁湧水連通管等の個数は含まれていない。これらの位置及び個数は意匠図による。  
2.壁床スラブの貫通孔で鉄筋を切断しない場合は、開口補強筋は不要。  
3.貫通孔を設ける部位には各要領図に従い開口補強を設ける。

(C)S梁の貫通要領は下記による。

図7.5 S梁の貫通要領

(注)1.柱端部ブラケット範囲及びその継手区間(\*)は梁貫通は原則として不可とする。  
2.補強図示のないS梁の梁貫通については貫通補強は不要とする。

着工 平成 28 年 6 月 25 日  
竣工 令和 元年 11 月 30 日  
監理  
施工 大成・大旺新洋特定建設工事共同企業体

本標準配筋要領図に使用される記号  
B リストに示す梁幅  
D リストに示す柱幅  
E, F 柱梁の打増寸法  
H リストに示す梁せい  
L1 一般鉄筋の継手及び特殊な場合の定着  
L2 一般鉄筋の定着長さ  
L3 小梁、スラブの下端筋の定着長さ  
L1h フックあり継手及び定着長さ  
L2h, L3h フックあり定着長さ  
P 壁開口(円孔)の大きさ  
W 屋根・床スラブの開口(長辺方向)の大きさ  
d 鉄筋の呼び名に用いた数値  
h 階高  
ho 柱の内法高さ  
ℓ 梁のスパン、片持ちスラブのスパン  
ℓo 梁の内法スパン  
ℓx/ℓy 長方形スラブの短辺有効スパン  
t リストに示すスラブ又は壁厚さ

完成図 構-19

日建・上田特定設計委託業務 共同企業体  
高知市都市建設部公共建築課  
担当 担当 係長 課長補佐 副参事 課長

高知市新庁舎建設工事  
標準配筋要領図(6)  
NO. 0-140004-B

19  
3-6